

土木技師になって

飯塚県土整備事務所 交通安全係 千綿航平

私は高校卒業後 18 歳で福岡県庁に入庁しました。社会に出たことのない私にとっては毎日が不安で仕方がありませんでした。職場が地元から遠い飯塚に決まり何もわからないことだらけでした。しかし職場に行ってみると、たくさんの先輩方に仕事のことやそれ以外のこともたくさん教えてもらうことができ、仕事に対する不安もすぐなくなりました。それからは自分で現場を持ち、自分で考えて工事発注をしたり、業者さんと相談して仕事を進めていったりと自分で考えて仕事をするのがとても増えました。

工事を自分一人で進めていくことはとても大変だと思いました。工事といってもふたを開けてみると中身はいろいろなことがあり、ひとつのものを作るにもどんな工事があるのか、何の機械が必要か、施工状況はどんな感じになるのかなど、自分で中身を考えながら設計していく必要があることがわかりました。また設計して工事に入っても仕事を進めていく中で、現場で当初では予想もつかないことがよく起こります。そのような予想外の事態にも柔軟に対応していかなければならないのです。はじめのころは何もわからず先輩方にアドバイスをもらったり、わからないところはしてもらったりと先輩方に頼りっぱなしでした。半年間いろいろな工事に携わることで少しですが自分で考えて仕事を進めていくことができるようになりました。自分一人で業者さんと立会したり、指示を出したりすることができるようになりました。

初めて自分で設計して発注した工事は防護柵を設置する工事でした。わからないことだらけだったのですが何とか完成させることができました。自分で初めから設計して完成させたときはとてもうれしかったです。自分の力で構造物を一から設計し、現場の状況にも対応して完成させることができうれしかったです。

ひとつの工事を完成させ、土木職としてもものを作ることの楽しみがさらにわかりました。地域の住民の方々に貢献できるこの仕事がさらに好きになりました。土木の仕事でもものを作ることによって住民の方の安全や交通の円滑化、利便性の向上、生活のしやすさなどその地域のためにたくさんの仕事ができるこの職種がとても好きになりました。

これからも自分の好きな土木職の仕事を学んでいき、さまざまな工事にかかわり、土木のことを勉強して地域の発展のために力を尽くしていきたいと思います。さらに入庁して半年たち仕事をしていく中で改めて自分の好きなことを仕事としてできていることをとてもうれしく思います。これからもがんばっていききたいと思います。